

## 地域意見交換会の概要

村山総合支庁  
最上総合支庁  
置賜総合支庁  
庄内総合支庁

## 地域意見交換会の概要（村山総合支庁）

1 開催日時 令和3年11月11日（木） 午後2時～4時

2 開催場所 村山総合支庁本庁舎2階 講堂・Web併用

3 参加機関・団体（計21機関・団体）

管内12市町、管内4農業協同組合、2農業関係団体、2県関係機関 村山総合支庁産業経済部

### 4 協議テーマと主な課題・意見等

#### ① 「6次産業化に関するプロジェクト」について

- ・農業総合研究センターの加工ラボを活用して加工品の試作を行う計画だが、農業者が販売したい形と、食品製造業者側が買いたい形が異なるような、パウダー化などを希望された場合、農業者だけでは対応が難しく、中間業者の存在、農商工連携の取組みが必要。
- ・ワイナリーの新規設立について複数件の相談がある。県の補助事業では建屋が対象外となったが、希望する声は多い。やまがた野菜でもあるGI登録の「小笹うるい」について、総合支庁で行っている料理フェアの場やHPなどでPRをお願いしたい。
- ・産直の設置や枝豆やイタリア野菜支援などで6次産業化を進めている。今後は農商工連携、観光まで含めて取り組みたい。商品開発にあたり、近くにテストキッチンがあれば加工が進むという農家の意見があり検討している。
- ・農観連携、交流人口を増やす取組みとして地域の資源を活用したバスツアーを行っていたが、新型コロナウイルス対策として令和3年度は民間の旅行会社と連携し、果樹収穫体験などのポイントを自家用車で回るドライブラリーを行い好評だった。
- ・食品加工については農家の関心も高いが、市民が利用できる施設で加工したものを販売につなげるには、有資格者等の配置がハードルとなっている。ビジネススクールなどで人材を育てる必要がある。
- ・そばの在来品種については、作付面積が増えてきているが、今後はGI登録など産地間の差別が必要と考えている。そばクーポンなどの発行で消費拡大を図っているが、コロナ禍で観光客が減少し、生産が消費より多くなっている状況。
- ・地元の農産物を活用した加工品開発を行っている。卸先が菓子製造業者のものは、新型コロナウイルスの影響により需要減となった。今後加工品の生産量を拡大するには、継続的な原材料の調達と人員確保が課題となる。

#### ② 「畜産に関するプロジェクト」について

- ・優良種豚導入、酪農ヘルパー利用事業などの補助メニューによる増頭、ブランド牛の銘柄確立のためのフェア開催、飼料用作物の種子購入等の補助、放牧場を利用する際の使用料補助を行っている。また、国や県の整備事業を活用して耕畜連携の事業を行っている。
- ・畜産振興を進めると課題となるのが環境対策である、稲わら、堆肥の活用を図るため耕畜連携を進めていきたい。
- ・クラスター協議会を設置し、繁殖牛、肥育牛の拡大が進んでいる。それに伴い堆肥の処理が必要となり、耕畜連携を進めている。飼料用作物である子実用とうもろこしの生産拡大を進めているが、子実用とうもろこしは刈取りや乾燥施設など課題があるものの、農地保全やそばとの連作障害対策などが期待される。
- ・公共牧場の運営はそれぞれの市町が行っているが、予算的には厳しいなか、域外利用が進められている。山形生まれ山形育ちの牛を育てるためにコスト的にも放牧場はとても効果がある。運営に対して広域的な連携強化を更に検討することが必要。
- ・肥育牛の一大産地として循環型農業の推進について堆肥センターを中核として行ってきたが、老朽化により改修が必要となり、ご指導をいただいている。畜産農家の安定化のため、繁殖牛導入による一貫経営の支援を進めている。肥育頭数が増えると堆肥の処理が課題。堆肥を再生エネルギーに活用する検討を進めていきたい。
- ・米価の下落により、今後の土地利用型作物の生産を危惧している。畜産との連携についてより良い方法を模索している。
- ・畜産農家は法人経営も多いが家族経営もまだ多い。営農の維持と経営基盤の強化が課題となる。
- ・米価が思わしくなく、飼料用米の導入等も今後検討する必要があるが、実際に行うには畜産農家との連携や価格が課題となってくる。



写真1 簡易放牧の状況（西川町内）

- ・繁殖牛の増頭を進めている。昨年から輸入飼料の価格が高騰しており、今後、農家の経営ひっ迫が懸念されるので、支援をお願いしたい。来年度鹿児島県で全国和牛能力共進会が開催される。山形牛のブランド力強化のため、県の支援をお願いしたい。

### ③ 「村山の果樹振興に関するプロジェクト」について（独自テーマ）

- ・やまがた紅王の栽培については、高品質生産とブランド化の推進、また作業省力化等への取組みと合わせて進めていきたい。
- ・やまがた紅王については、農家の関心も高い、すでに改植した農家からは雨よけ施設支援の要望もある。デビューイベント等については、オール山形での取組みを期待している。
- ・さくらんぼの生産量が今年度過去最低となった。品質についても後半の佐藤錦が悪かった。今後はやまがた紅王の生産に取組み、研究会を設立して栽培管理等の研修を行い、産地形成を図りたい。
- ・結実対策としてオイルヒーターや授粉用資材の補助などを行っている。さくらんぼの不作が続き、農家の営農継続が課題、やまがた紅王をきっかけにさくらんぼの生産振興を図りたい。
- ・さくらんぼ雨よけ施設の長寿命化等の支援で、認定農業者だけではなくふるさと納税返礼品の協力者も対象者としている。
- ・新規就農者がりんご、シャインマスカットを植栽し、耕作放棄地活用の取組みとなっている。
- ・シャインマスカットの大規模団地については、栽培の経験が浅い人を軌道に乗せることが課題、県からも参加いただいているが、研修等の取組みが必要。
- ・ぶどうの栽培についてクラウドファンディングで規模拡大の支援を行った。
- ・シャインマスカットの生産が拡大しているが、農家からは山形産という特別のブランド性が欲しいとの声がある。また、シャインマスカットに次ぐ品種は何なのかとの意見もある。
- ・すももについては、7月から10月まで切れ間のない出荷が可能となっている。新規就農者が取り組む例もあり、伸びしろはまだある。栽培技術の向上と園地の確保が課題。アメリカ産すももの輸入の影響も懸念されるので、研修等で質・量の確保を進めたい。
- ・生産を止めた果樹園が放任状態となり、隣接する果樹園の病虫害、鳥獣被害が懸念される。
- ・担い手の確保が課題、樹園地の継承も条件が良いところは進んでいるが、山間地は難しい。
- ・中山間地域の農地整備について、管内でもぶどうの団地やほ場整備事業の転作としてのりんご栽培などの例がある。凍霜害について畑地かんがい施設により被害が低減された例もあり、整備を進める必要がある。
- ・凍霜害等の支援でも要件となっている収入保険や農業共済の加入率向上が課題。
- ・昨年度から豪雪による枝折れ、凍霜害、降雹など果樹は大きな被害を受けている。先日県で再生・強靱化への対応の協議会が設置されたが、着実な実施をお願いしたい。防霜のヒーターなどについても色々な提案がされているが、被害を防ぐためにも検討したい。



**写真2** さくらんぼ結実確保  
対策キャラバン  
(山形市黒沢 4月14日)



**写真3** シャインマスカット  
団地苗木管理講習会  
(山形市長谷堂 6月9日)



**写真4** すもも幼木管理  
研修会  
(大江町塩野平 5月21日)

## 5 その他

- ・新型コロナウイルスによる需要減退や、数年続いた豊作などにより、令和2年産米が大量に残っている。米の保管料についての支援等をいただいているが、在庫が多いままでは令和3年産米の販売が進まない懸念があり、今後も需給改善に向けた支援について御協力をお願いしたい。

## 地域意見交換会の概要（最上総合支庁）

- 1 開催日時 令和3年11月8日（月） 13時30分～16時00分
- 2 開催場所 産地研究室 会議室
- 3 参加機関・団体（管内市町村及び農業協同組合）
- 4 協議テーマと主な課題・意見等

### ①「6次産業化に関するプロジェクト」について

- ・6次産業の推進基盤強化等に向けた産地直売所の商品ブラッシュアップ支援、食材情報発信としてのオンライン料理教室及び最上传承野菜・うまいものフェア等の販路拡大イベントの取組みが紹介された。
- ・町単独であるが、落花生で新商品「ビーナッツ」を開発し、PRに取り組んでいる事例が紹介された。
- ・加工して付加価値を付けて販売しているが、売上が伸びない。
- ・産直の組織を10年前にスタートさせ、販売する仕組みを作ったが、高齢化で意識が低下している。また食品表示のハードルが上がり、対応が難しくなっているとの意見が出された。
- ・菌茸の加工品をいち早く作ったが、人がいなくなってきた、地域ぐるみでの取組みでなんとか維持しているとの状況報告があった。



産地直売所研修会



オンライン料理教室

### ②「畜産に関するプロジェクト」について

- ・R4以降の畜産クラスター整備事業の計画と、R3の畜産所得向上支援事業の取組みや和牛繁殖牛能力向上支援事業の計画が紹介された。
- ・生物を飼うため休みが取りにくいことから後継者が不足し、少数の若手経営者は規模拡大しているが、現在の経営者がリタイアしたら廃業するところが多い状況との報告があった。
- ・法人経営では大規模化が進んでおり、雇用も増えている。
- ・大規模経営から堆肥が大量に出てくるが、ニラやネギ栽培からの堆肥需要がある地域と、これまで大きな堆肥需要があったアスパラ栽培が頭打ちになっているため今後の堆肥活用を検討しなければならない地域もあるとの報告があった。



農業現場見学会



子牛の発育調査

### ③「野菜・花きプロジェクト」について

- やまがた野菜ブランド強化・やまがた花きブランド強化プロジェクト
- ・ R3年度の取組みとして、若手アスパラガス研究会の設立と栽培技術向上、にらの新品種を導入した栽培マニュアル作成、トルコぎきょうの立枯病対策の取組み、「スノーボール」の雪を使った6月出し栽培技術が紹介された。
  - ・ には、高齢化や雇用労力の確保が難しくなっている状況の報告があり、省力化機械の導入等により産地拡大を図る必要があるとの意見があった。
  - ・ トマトは、面積が増加傾向で若手生産者も増えている。若手生産者の育成は重要であり、栽培研修会など、引き続き総合支庁での開催の要望があった。
  - ・ 今年で4年目となる真室川町の「雪室野菜部会」では、にんじん、はくさい、だいこんなど、約20名の少数精鋭で取り組んでいる事例が紹介された。
  - ・ 花きは新型コロナの影響を受け、一部、品目転換している。トルコぎきょうの土壌病害対策は急務である。また、りんどうは中山間地で期待される。



にら移植機の実演



若手アスパラガスの現地研修会

### ④第4次農林水産業元気創造戦略の今後の展開について

- ・ 人口減少で後継者がいないことや高齢化が進んでいることが一番の課題。
- ・ 今後、更なる労働不足が懸念されることから、野菜の病害虫防除等園芸部門でのドローンの技術開発を加速するようメーカーに伝えてほしい等作業の省力化や効率化の要望があった。
- ・ 「ニジサクラ」の養殖に取り組んでいるが、来年出荷予定であるため、支援の要望があった。
- ・ 中山間振興が課題であり、水稻をやめて転換する農家に対する積極的な支援の要望があった。
- ・ スマート農業の研修会を開催した。数値化・分析し儲けられるような農業を目指すべきとの意見が出された。

## 地域意見交換会の概要（置賜総合支庁）

**1 開催日時** 令和3年11月5日（金） 14時00分～16時15分

**2 開催場所** 置賜総合支庁本庁舎2階 講堂

**3 参加機関・団体**

管内8市町、JA山形おきたま

**4 協議テーマと主な課題・意見等**

①「6次産業化に関するプロジェクト」について

- ・これまで置賜地域のワイナリーや農家レストランを紹介するパンフレットを作成。今後はコロナ禍で売上げの減った農家民宿事業者間の連携により集客を図る予定。
- ・ネット販売等を目的としたホームページ作成経費に対する支援事業について、これまで活用実績がない。しかし、独自のホームページを立ち上げている方があるので、引き続き事業の周知を図り、販路拡大を支援していく。
- ・共同加工施設を利用して6次産業化に取り組む事業者が固定化され、新規参入の方が出てこない。市内の食品加工事業者と農業者の連携による商品開発等を引き続き支援し、新規参入を促進していく。
- ・地域内の6次産業化の推進を図るため、拠点となる施設（既存直売施設一帯）の整備に向けた調整、運営方法の検討を行っている。今年度は、共同加工施設の整備に向け、調査・検討を行っている。



画像 置賜管内のワイナリーパンフレット

②「畜産に関するプロジェクト」について

- ・畜産業の規模拡大には投資額が大きいため、施設整備の実施に踏み出せない生産者が存在するのが実態であるが、意欲ある生産者に対しては関係者と連携し、構想の実現に向けた協議を進めたい。
- ・地域環境に配慮した畜産経営の規模拡大に向けて、地域住民から十分に理解を得た上で、畜産業の振興を図ることが重要である。
- ・子実用とうもろこし等水田を活用した飼料生産を図るため、コントラクター（作業受託組織）設立に向けた検討を進めたい。

- ・転作田や遊休農地を有効活用した簡易放牧を推進するため、吸血昆虫による繁殖牛のストレス軽減対策（ゼブラ柄塗装）の普及啓蒙を図りたい。



画像（飯豊町）子実用とうもろこしの収穫状況



画像（小国町）簡易放牧の風景

### ③「園芸（重点9品目）の振興」について

- ・さくらんぼは担い手不足が深刻化しているため、各市町と連携した農地バンクの設置や担い手のバックアップ体制の構築が必要。また、霜害対策の確実な実施が必要。
- ・えだまめは、産地全体として栽培面積の拡大は図られているが、個々の農家でみれば、出荷期間が短く出荷時期による単価の変動の影響を受けやすい農家も多いことから、収益性確保のため、品種や作期の計画的な組み合わせによる長期安定生産を進める必要がある。
- ・アスパラガスは生産者の高齢化が進み、病害発生等をきっかけに栽培を辞めるケースが増え、作付面積や出荷量が減少しているため、新規栽培者の掘り起こしが必要。広報や回覧板などによる非農家を対象とした働きかけや新規栽培者の栽培意欲を高くもてるような講習会等の継続も必要。
- ・啓翁桜は冬季の収益が見込める品目であるため、面積の拡大や出荷時期の分散等により、収益増を図っていく。



画像（川西町）園芸ステーション



画像（米沢市）えだまめの新規栽培者・栽培志向者を対象とした講習会

## 地域意見交換会の概要（庄内総合支庁）

1 開催日時 令和3年11月9日（火） 10時00分～12時10分

2 開催場所 庄内総合支庁4階 講堂

3 参加機関・団体（計10機関・団体）

管内4JA、管内4市町、庄内地方林業振興協議会、山形県漁業協同組合

4 協議テーマと主な課題・意見等

①「6次産業化に関するプロジェクト」について

- ・漬物や笹巻、しそ巻といった伝統的な加工技術について、継承の取組方法について指導いただきたい。
- ・閉園した保育園の建物を、農泊とまでいかなくとも地元で昔から食べてきた健康食等を提供するコンセプトのもと地域で活用したいと計画している。関係部署から指導いただきたい。



画像1 果実ジャムの瓶詰め加工実習  
（農業技術普及課 R3.8.3）

②「海面漁業に関するプロジェクト」について

- ・ブランド化による魚価の向上は、漁業者の所得の増加という部分ではだいぶ貢献している。一方、ブランド魚種の価格が高くなりすぎて地場の消費が低水準となり、地産地消の推進との兼合いが難しい。
- ・蓄養魚の販売方法について、漁協や漁業者が飲食店と直接取引を試行しているが、仲買人がないがしろになる弊害を危惧し、漁協としては積極的に進んでいけない。
- ・将来の漁港の再編、統合等により発生する未利用域を蓄養に利用してはどうか。
- ・岩ガキの漁獲量が減っている。県からも漁場づくり（増殖場設置）や浚渫など取り組んでいただいているが、今後も町と県で連携して岩ガキを増やす取組みに繋げたい。
- ・酒田港にある漁協の冷凍庫が老朽化し、近々更新が必要。不確定要素が多くまだ検討が必要な部分はあるが、県や国の補助金について手当てできるようにお願いしたい。



画像2 蓄養実証事業  
に取り組む漁業者  
（R3.9）



画像3 ブランド化に向けた  
取組み（R3）



### ③「野菜・花きに関するプロジェクト」について（独自テーマ）

- ・施設園芸で全く後継者がいない事例が今後増加する懸念がある。現役の生産者からアドバイスをもらいながら継承するような人を連れてくる仕組みを作れないか。農協としてもお互いをマッチングできるようにやっていきたい。
- ・トルコぎきょうの土壌病害対策について、継続して最新の情報を提供いただきたい。
- ・令和2年度の大雪等による被害では、農業被害緊急対策パッケージが発動されたが、一部支払いが遅れているものもあり、今後は事前に予算を確保して迅速に進めてもらいたい。
- ・花き生産を辞めていく人が出てきている。食い止めるには省力化技術がポイントとなる。現在、ハウス導入と併せて付帯設備を導入する場合は補助対象となるが、付帯設備のみの導入は対象外なので、省力化に繋がる後付けの設備導入についても支援をお願いしたい。
- ・庄内町の種苗センターでは、種苗メーカーから新品種を提供いただいております。花きの栽培から開花まで見ることが出来る。ぜひ広域で活用いただきたい。



画像4 メロンの多収栽培現地検討会(鶴岡市下川地内R3. 7. 13)



画像5 ストックのオールダブル系品種現地検討会(鶴岡市下川地内R3. 11. 1)

### ④「県産木材の安定供給・森林の多面的機能に関するプロジェクト」について（独自テーマ）

- ・林業労働生産性を今後も維持していくためには、経費節減に繋がる路網の整備が必要。
- ・最近、山の現場に若い人が入ってきている。林業による収入がもっと増えれば、若い人の就労の場として見直されるのではないか。
- ・路網整備や高性能林業機械導入支援などにより経費節減を図りながら、山主にも利益が行くようにしていけば、再造林が進むと思う。
- ・レーザー測量について、支庁を中心に取りまとめていただいた共同実施で予算要求していると聞いているが、ぜひ実現していただきたい。



画像6 高性能林業機械（ハーベスタ）による伐採状況（鶴岡市温海地域 R3. 10）



画像7 伐採後の植栽実施状況（鶴岡市温海地域 R3. 5）